バスケットボールとヒップホップの結びつきに関する研究

A study of bond of basketball and the hip-hop

1K04B158-0

中澤 直之

指導教員

主査 原田宗彦先生

副査 倉石平先生

背景

日本においてバスケットボール競技人口は多いにも関わらず、国際競技力や国内での人気が低迷している理由はどこにあるのだろうか。この問題については既に多くの議論や研究がなされている。ビジネス的視点を切り口としたものや、運動科学の領域からなど様々である。しかしバスケットボールを日本の真の文化とするための取り組みについてはあまり考えられていない。そこで本研究では、スポーツが文化として定着する経緯、またスポーツと文化が結びつく一つの例として、アメリカにおけるバスケットボールとヒップホップの結びつきについて研究していくこととした。

目的

研究目的 1:バスケットボール及びヒップホップそれぞれの定義を明確にする。

研究目的 2:バスケットボール及びヒップホップそれぞれの、発祥から現在までの歴史・背景及び両者の関係構築を明らかにする。

研究目的 3:バスケットボール及びヒップホップが関係を構築した過程における日米間の差異の有無を確認する。

研究目的 4:研究目的 1、2、3 を踏まえ「日本にバスケットボール文化を定着させる」という点に対して、参考となる点を見出す。

方法

研究方法 1:文献やインターネット上のホームページ及び関連組織の公式ホームページを参照する。

研究方法 2:バスケットボール又ヒップホップについての映画やドキュメンタリーなどの映像資料を用い、文章で表される以外の文化や背景などをうかがう。

結果及び考察

ヒップホップとバスケットボールの接点を作った要因として考えられたのは以下の5点である。

- ① ヒップホップが誕生したニューヨーク周辺では、古くから教会リーグが発展するなどバスケットボールが盛んであったこと。
- ② ヒップホップの起源であるブロック・パーティーは広場などで行われており、同時にバスケットボールも同じ広場で行われていたこと。
- ③ バスケットボールの基本的な考えである、広大な

フィールドを必要としない、特別な器具・道具を必要としないという点が、黒人の居住地区や生活環境に適応していたこと。

- ④ 野球、アメリカン・フットボールなどのスポーツに比べ、バスケットボールは個人プレーの幅が広く、ダンクシュートなどの相手を圧倒するプレーの存在が、自己顕示欲の強いヒップホップ的な考え方に当てはまったこと。
- ⑤ ダンス、グラフィティ、ラップ、DJ などのヒップホップアーティストとして有名になるか、バスケットボールなどのプロスポーツでプロ選手として大金を稼ぐことが、法律上の差別が無くなっても日々の暮らしの中で中々改善されないゲットーの生活環境や経済状況から抜け出して行くための僅かなチャンスであったこと。

以上の要因がバスケットボールとヒップホップを結びつけたと考えられる。

結論

結論 1:バスケットボールは5人対5人のチームで行われることが多いゴール(バスケット)とボールを用いる球技である。ストリート・バスケット、スリースタイルなどの特殊な形式も存在する。ヒップホップとはラップ、DJ、ブレイクダンス、グラフィティの総称である。

結論 2:バスケットボールとヒップホップは意識的に結びついたものではなく、ヒップホップが生まれた黒人社会の中にバスケットボールというスポーツが根付いていたことによってできた関係であった。

結論 3:アメリカにおいて、バスケットボールとヒップホップは様々な要因が重なり社会に強く根付いていたため特別な関係を築いた。日本においては、外来の文化であり、双方が日本国内において社会的に強く結びつくには至っていない。

結論 4:バスケットボールとヒップホップの結びつきからは、直接的な提言を見出すことは出来なかった。しかしアメリカにおけるバスケットボールの歴史を調べると、日本国内のリーグ並立による弊害が、ABA と NBA の実例によって明らかになった。また、日本のトッププレイヤーが子供達の憧れになり彼らのロール・モデルになるなら、プロを志す子供が増え日本バスケットボール界の盛り上がりにつながる可能性があると言える。